

<NST 活動報告会> 12月12日実施

① 第8回 NST 活動報告・・・栄養科 伊藤 豊高

<NST 介入活動>

依頼人数：52名、延べカンファレンス件数：163件、NST加算割合：95.7%

昨年度の活動報告会では、NSTの早期介入はALB値の改善と相関することを示してきました。

今回、血中半減期が短く代謝の早いTTR(トランスサイレチン)ではNSTの早期介入による改善効果をより強く反映できることを示しました。

<NST 運営委員会活動>

褥瘡回診対象患者のNST介入フロー作成

褥瘡患者の多くは栄養障害を伴っていることが多く、褥瘡の改善には栄養改善が必須です。しかし、従来個別での回診介入となっていたため、**重度の褥瘡と栄養障害がある場合でもNST介入となるまで時間がかかりました**。そこで、褥瘡対策委員会とNST運営委員会で協議し、褥瘡回診対象患者に対し同時期にNST介入依頼を検討していただくことし、回診介入フローの改善を行いました。

② 『腸内の平和を取り戻せ。ビフィズス菌。君に決めた！』

『排便コントロールに難渋した事例』・・・薬剤科 岩崎 正宏

排便コントロールに難渋し、市販のビフィズス菌製剤を使用した症例を提示しました。

下痢の原因は**栄養剤の組成や投与速度、抗菌薬の使用や制酸剤の使用等様々ですが、腸内細菌叢の乱れも大きな原因**となります。ビフィズス菌を使用することで、腸内細菌叢が整い、排便コントロールが良好となりうると考えられました。また、医薬品の整腸剤の特徴や適応について紹介しました。

『ビフィズス菌製剤紹介』・・・(株)クリニコ

一般に使用される整腸剤には大きく分けて**乳酸菌とビフィズス菌**があり、身近な食品におけるビフィズス菌を含む商品のいくつかについてその特徴を説明しました。今回使用したビフィズス菌製剤は、医薬品の整腸剤の約500倍の菌数を含む製品で腸内環境を整える効果が期待されています。

『腸内細菌』・・・NST チェアマン 岡田 雅仁

「腸内細菌」は、最近では「腸内フローラ(お花畑)」という言葉で表現されることが多く、**消化器系疾患だけでなく、様々な疾患との関連**が報告されています。免疫系疾患との関連は何となく理解できる感じがしますが、最新のデータではパーキンソン病のような脳疾患にもこの「腸内フローラ」が関係していると言われています。つまり、パーキンソン病の治療の一つに「腸内フローラ」の正常化という選択肢が入ってくると可能性があるということです。さらに驚くべくことに「腸内フローラ」の正常化には、「**便移植**」という方法があり、日本でも実際に治療がなされているということです。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。NST運営委員会では**栄養不良の早期発見、早期改善**を目指しています。NST介入のご依頼をお待ちしています。

発行人：NST チェアマン 岡田 雅仁

編集

井上 温 ・ 三浦 広美

小野田 素大 ・ 佐藤 剛